

桜蔭俳話会 一月句会 (第

まだ……動詞の否定形」の

三五二回)

句として、よく出来ている。

平成二十九年一月二十九

フランスの鴨肉食べて初句

日(日)

会 直子

猫の尾のはてなの仕草日脚

鑑賞：フランスから直輸入の

伸ぶ 幸

鴨肉料理を食べてから初句

鑑賞：伝統的な作り方の句

会とは洒落ている。この見

としては一応出来ている。

立ての即興俳句には、一同

季語として「日脚伸ぶ」が果

感服。

たして効いているかどうか

波郷碑へつづく石段日脚伸

である。「日向ぼこ」が最適

ぶ 朋子

であるが、ことうすると、よ

鑑賞：「つづく」と「伸ぶ」の取

く見かける句である。

り合わせが自然で良い。

まだ何も書かれぬ句帳寒に

年新た菜箸白く光りをり

入る 友子

ヤエ子

鑑賞：伝統的な作り方の句、

すなわち、

鑑賞：伝統的な作り方の句  
として、一応出来ている。常  
套的な「兜り」をとれば、  
年新た菜箸ひとつ下ろし  
立て、とすることもでき  
る。

鑑賞：青年は夢を抱いて都  
会に出て来るが、日々の生  
活に追われて、その夢は実  
現せず、漂流している。夢と  
宝船との結合一体化が絶妙  
である。

健さんの映画ひねもす雪積  
もる かおる

鳩サブレー尾よりかぢりて  
女正月 幸

鑑賞：句意は分かるが、ひ  
ねもす」が「雪積もる」に掛  
かるようにもとれる。この  
ような誤読を明確に排除す  
るには、「再びの 健さん映  
画」雪積もる』、とすること  
もできる。

鑑賞：伝統的な作り方の句  
としては一応出来ている  
が、「鳩サブレー」、女正  
月」、尾よりかぢる」の句  
立ては、よく見かける。  
覗色すつと入るや冬の月  
かおる

大都会流せぬ夢の宝船  
眞壽

添削：覗色」を一句に取り  
入れたのは良いが、空の色

を形容したものとでは、  
未だ孤立している。寒月の  
すつと入る空靨色」、とする  
こともできる。

添削：寒梅の花のさかりを  
見詰めをり  
順繰りに四本の杵や越後餅  
ヤエ子

ずわい蟹伊万里の皿を小さ  
くす 幸

添削：越後餅臼に入るは杵  
ばかり

鑑賞：伝統的な作り方の句  
としては出来ているが、料  
理と皿の大小関係を句材に  
するのは、よく見かける。

日脚伸ぶ鉢植え置かれサン  
ルーム 明美  
添削：日脚伸ぶ鉢植えひとつ  
サンルーム

冬木立枯れている色我を見  
ゆ 直子  
添削：冬木立枯れまいとす  
る我を見る

初孫に治癒力増すや春近し  
かおる  
添削：初孫に会ひし治癒力  
春近し

寒梅の花のさかりを遠巻き  
に 朋子

初場所の土俵たひらに掃き  
箒 明美

添削：初場所の土俵たひら  
に掃き清め

添削：初詣へと丘の道遠汽笛

初めてのホールインワン日

三日果つ今年の計の決めら

脚伸び かおる

れず 友子

添削：どよめきのホールイン

添削：三日果つ今年の計の先

ワン日脚伸び

延ばし

抱く子のまた重くなる初詣

大寒やスーパーはたとセル

友子

フレジ 明美

添削：抱く子のまた重くな

添削：大寒やスーパーつひに

り初詣

セルフレジ

山裾の馬頭観音霜柱

外套をざつくり羽織る白衣

幸

かな 朋子

鑑賞：伝統的な作り方の句

添削：外套を肩にざつくり

としては、よく出来ている

白衣かな

が、新味が欲しい。

初詣汽笛聞こえる丘の道

眞壽

重ね着て軽くあたたか母の

再会の三人の踏む落葉かな

もの 朋子

朋子

添削重ね着の軽くあたた

添削再会の二人の踏みし

か母のもの

落葉かな

大家族習ひながらの初詣

嫁が君柱に開ける穴一つ

かおる

眞壽

添削初詣の所作習ひつつ大

添削嫁が君穴の開きたる

家族

太柱

はひはひの子へも等しくお

スカーフにきれいにくるむ

年玉 友子

木の葉髪 明美

添削はひはひの子へお年玉

添削スカーフに綺麗にまと

一人分

め木の葉髪(木の葉髪は初

サラリーマン今年もやるぞ

冬の季語)

初仕事 眞壽

日とどまる玻璃を動かぬ冬

添削自らに檄を飛ばして

の蠅 ヤエ子

初仕事

添削：日の差せる玻璃を動

添削：五能線じりじり進む

かめ冬の蠅

ラッセル車

バイク旅無事の太字や賀状

日脚伸ぶ仕事が終わリ晴れや

かな 幸

かに 直子

添削：バイク旅無事と太字

添削：一日の仕事納めや日

の賀状来る

脚伸ぶ

富士の山裾を広げて初日の

紙芝居へわくわく来る子日

出 直子

脚伸ぶ 友子

添削：富士山の裾の拡がり

添削：日脚伸ぶ終幕近き紙

初日の出

芝居

迎ふ園へ足取り軽し日脚伸

公園に子等の声あり日脚伸

ぶ ヤエ子

ぶ 眞壽

添削：子の園へ軽き足取り日

添削：遊ぶ子の声の散らば

脚伸ぶ

り日脚伸ぶ

五能線吹雪かき分けラッセ

七草に今年も願ふ穏やかに

ル車 明美

直子

添削：七草や穏やかなれと  
願ひつつ

―(サンハート)。兼題は、  
春光。

大北風や湯気の色濃し露天  
の湯 ヤエ子

添削：大北風や尽きること  
なし露天の湯

三月句会から、出句数は、  
五句以上、十句以内となり  
ます。選句数は出句数と同  
数です。

(文責代表

新しい試みですが、挑戦し  
ましょう。

増田守 不在投句 古野  
明美、稲葉幸)

○四月句会

「事務局からお知らせ」

四月二十三日(日)午後一  
時から、旭区民文化センタ  
ー(サンハート)。

○二月の句会は休みです。

○三月句会

○通信句会の選句を

三月二十六日(日)午後一  
時から、旭区民文化センタ

第一二四回通信句会の投  
句一覧と選句用葉書を同

封してあります。期日まで  
にご返送ください。